

事業所名

ふぁんたす

支援プログラム（参考様式）

作成日

R7 年

2 月

26 日

法人（事業所）理念		全てのの人に愛をもって接し思いやりを。導くを原動力に。					
支援方針		初体験に心躍らせ可能性を拡大し覚醒できる場所。 子ども一人ひとりに寄り添い、「やりたい」「できるようになりたい」を叶えていく。					
営業時間		10 時	0 分から	18 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり なし
		支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	自分の荷物の片づけや自分の物の管理、手洗いうがい等、自分の身の回りことが自分のできるようになる。 個々に合わせた排泄を促す声かけをする。 衣服等着脱をする際、時間に余裕をもって自分で自分の身体を動かして着脱することが出来るようにサポートする。 楽しく食事ができるよう、口腔内機能、感覚等に配慮しながら咀嚼、嚥下、姿勢保持の声掛けを行う。					
	運動・感覚	運動プログラム等を通じて、体を動かす機会を提供し、運動の楽しさを知る。 様々な運動活動を経験し、動作の向上を促す。 体育館での活動を行っているので、ストレスなく思い切り身体を動かせる機会を提供する					
	認知・行動	絵カードやボードゲーム等余暇時間の過ごし方の選択肢を増やすことで、自己決定できる場面を提供する。 その日ごとの事業所の時間割（プログラム活動、帰りの会等）を見える化することにより、児童自身がその時何をしたらよいのかを自己判断できるようにしている 目で見ると、耳で聞く情報から適切な自己決定をして行動できるような声掛け、促しをする 個々の特性に配慮しつつ、児童一人ひとりの拘り、偏食等について緩和できるような声掛け、促しをする					
	言語 コミュニケーション	パソコンプログラムにてそれぞれが自分の作ったイラスト等を発表する機会を作ることにより、話す力、聞く力を養う お出かけ支援等により、地域交流や地域住民とあいさつや対話をする機会を作り、コミュニケーションの基礎能力の向上 日常生活で必要な言語の習得、適切な発音、発語を身に付けられるよう、職員との会話のトレーニング等を行っている					
	人間関係 社会性	日々のプログラムでの集団活動を通じて他者の気持ちを理解する力を養う 農業体験や職業体験を通じて、将来への見通しがもてる 遊びなどから人の動きを模倣することで、社会性や対人関係を学ぶ機会の提供をしている					
家族支援		保護者に寄り添い、互いの思いを発信し密に連携をとり、信頼関係を深めていくことに努めます。 生活でのお悩み、不安等の軽減を目的とし、定期的に個別面談をする機会を設けます。				移行支援	学校や他機関と連携を取り、児童の課題や支援方針の共通認識を図ります。
地域支援・地域連携		農協と連携をとり、農作業体験や職業体験等できる機会を設け、地域との連携を継続的に取り、質の高い連携を図っています。 夏祭り等児童が主体となり地域住民と交流する機会を設けている				職員の質の向上	各種研修（防災、虐待、ハラスメント等）を通じて専門知識を高め、児童の支援に当たれるよう体制を整えています。
主な行事等		4月：いちご狩り体験 6月：ボーリング大会 8月：夏祭り 10月：ハロウィン 12月：クリスマス会 2月：バレンタイン 等、、、					